

提言

共に生きる…

私が初めて橋村ももかさんと出会ったのは、今から14年前のことです。

おじいちゃん、おばあちゃんの家のお座敷の布団の上で横になっているももかさん。その隣に座り、お母さんは、ももかさんの進学先として養護学校を考えているということをきっぱり告げられました。どうしてそう思われたのだろう、どうして津森小学校は選択肢にならないのだろう、何が足りないのだろうか、ということを考えました。

その後何度かお家にお邪魔させてもらいました。養護学校にはたくさん友人がいるので情報を伝えることができるということ、どここの養護学校を選ばれても居住地校交流はできるということ。何度も足を運び話をさせていただく中で、「この子は同年代の子どもたちが周りで遊んでいると



益城町立広安西小学校

川口 久雄 さん

「それが親の希望、本人の思いだから…」という言葉を耳にすることがよくあります。「本人や親の願いを最大限に尊重する」ことは当然のこと。でも、本人や親さんにそう思わせている現実はないか、ということをお私たちは、厳しく、鋭く問い続けていかなければならないと思います。

ももかさんが小学校に入学した時、同級生は9人だけでしたが、子どもたちは本当に素敵な姿を見せてくれました。もちろん色々なトラブルもありましたが、それが「共に生きる」姿そのものでした。

ももかさんと周りの子どもたちのことを報告すると、「それは、小学校低学年だからできることだ」そんな声が聞こ

えてきました。高学年になってからは「小学校だからできること。中学校では部活もあるし、受験もあるし、とてもそうはいかない」という声も聞こえてきました。しかし、ももかさん、そして彼女を取り巻く周りの子どもたちと出会った先生方は、小学校から中学校までの9年間、「共に…」の「バトン」を見事につなぎ、県人教大会では10年間、毎年ももかさんとなかまたちの姿が報告されました。

* * *

2018年9月16日。ももかさんは亡くなりました。ご家族も「あまりにも潔い旅立ちでした」と言われるほどの、突然の別れでした。

心の整理もできず、茫然として参列したお通夜の席。葬儀場は、中に入りきれないほどの人であふれていました。様々な制服に身を包んだ、高校3年生となったももかさんの同級生たちの姿でした。たった9人から始まったもも

かさんの同級生は、私の知らないところでこんなに増えていたのです。途切れることのない焼香の列は、ももかさんが地域の中で共に生きてきた証…。こんなにもたくさんのかまを作ってきたももかさんの生き様を改めて感じさせられました。

成人式の時には絶対胃ろうからビールを飲ませよう、ちよつとだけ…と思っていたのですが、もうそれも叶いません。それでもきつと成人式の時には、この子たちの中にももかさんの姿があると確信しています。

ももかさんが地域の学校に入学し、クラスのなかまとともに過ごしていく姿は、多くの人の共感を呼び、広がって、何よりも大切な「前例」となりました。ももかさんが、その17年と6ヶ月の生涯を賭けて、地域にしつかりと刻んだバギーの轍を、これからも、大切に大切に引き継いでいきたいと思っています。